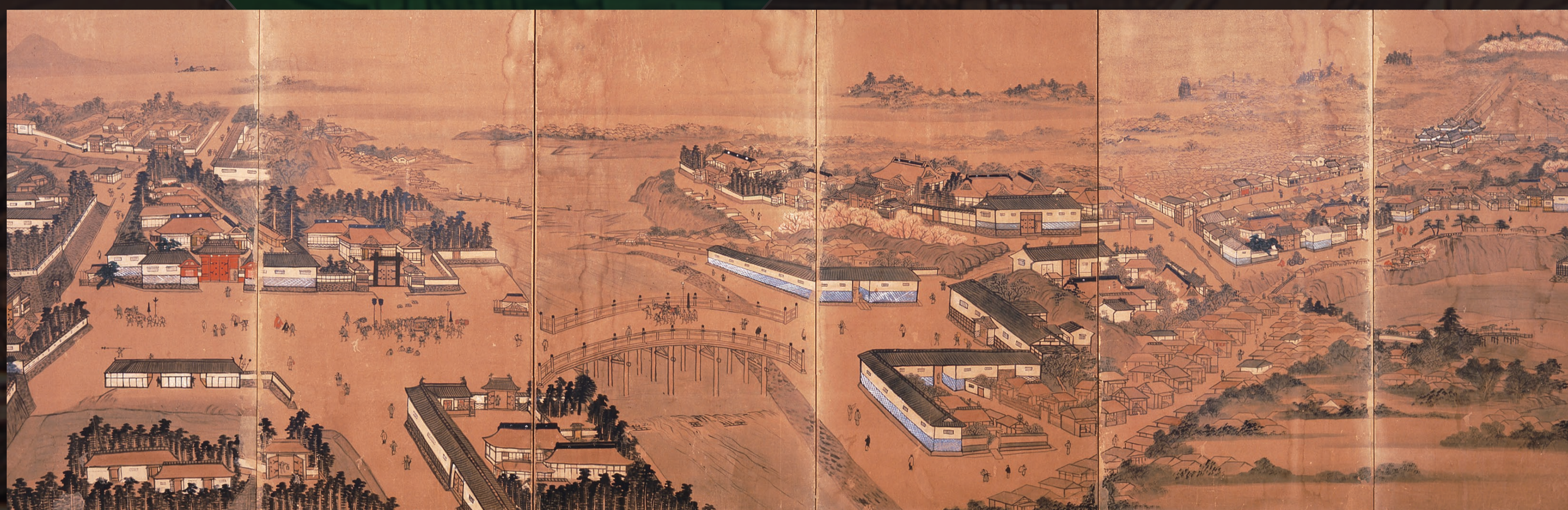


仙臺緑彩館と片倉屋敷跡

SENDAI RYOKUSAIKAN AND THE KATAKURA RESIDENCE SITE

広瀬川の西側は「川内(かわうち)」と呼ばれ、城を守る上で重要な場所だったため、仙台藩の重臣が屋敷を構えていました。広瀬川の東側は城下町が広がり、武士や町人の屋敷などが並んでいます。当館が建っている場所は、川内の中でも追廻と呼ばれていた地区です。17世紀後半以降は片倉屋敷や、仙台藩の馬を管理する馬屋や馬場などがあったことが分かっています。



仙臺城下図屏風(慶応元年) 仙台市博物館蔵

片倉家の仙台屋敷

The Katakura Family's Sendai Residence

仙台藩の重臣で白石城主であった片倉家は、仙臺城下にも屋敷を与えられていました。延宝5年(1677年)から幕末まで、この場所には片倉家の屋敷が建っていたことが分かっています。北側の通りに面した表門を入ると、玄関を伴った広間があり、その南東側には大書院や小書院などの建物が格式高く配置されていました。



仙臺城下絵図(寛政元年) 仙台市博物館蔵



仙臺緑彩館位置(「仙臺城下絵図」(寛政元年)に追記したもの)

仙臺緑彩館の建築設計

Architectural Design of the Sendai Ryokusaikan

現在の仙臺緑彩館は、江戸時代の片倉屋敷の空間構成を参考に設計されています。当時の絵図から読み取れた御広間や大書院のスケールはそのまま残し、庭と建物の位置関係や庭に面した回廊も、当時の構成を踏襲しています。6尺3寸を基本寸法とした柱割も建物内に活かされた設計となっています。

